

1-6 カムイユカラ

「エパウ」

キツネの神が自叙した神謡

語り手：貝澤とうるしの

サケへ：V =アワ エパウ アワ¹⁾

V =awa epaw awa

V1=ア エパウ アワ

V1=a epaw awa

V2=ア エパウ

V2=a epaw

V カムイコタン タ V2

神の村の

V kamuykotan ta V2

シサムコタン タ

和人の村の

sisamkotan ta

V1 クンネチロンヌプ

黒狐が

V1 kunnecironnup

V1 チネ キ ヒネ

私であり、そして

V1 ci=ne ki hine

V1 オカアサワ

暮らしていたところ

V1 oka=as awa

V1 エネ ヤイヌアシ

このように思った

V1 ene yaynu=as h_i

V1 アイヌパタ V1 aynupata	羨ましい
V1 チロンヌプカムイ V2 V1 cironnupkamuy V2	狐の神
ウタロロケヘ utarorkehe	たちは
V1 アイヌモシッ タ V1 aynumosir_ ta	人間の国土で
V1 オカ キ ワ V2 V1 oka ki wa V2	暮らしていて
マラット ネ コロ maratto ne kor	宴の客となって
V1 イナウ ピリカピ V1 inaw pirkapi	美しいイナウ（木幣）を
V1 コロ ヤク アイェ V2 V1 kor yak a=ye V2	手に入れると言う
タパンペ タシ tapanpe tasi	これこのものを
V1 チェコイトウパ V1 c=ekoytupa	私は羨む
V1 キ ワクス V2 V1 ki wakusu V2	ので
オロ シネ アンタ or sine anta	ある日のこと

V1 カムイ チネ クス
V1 kamuy ci=ne kusu

私は神であるので

V1 キナ ペンチャイ
V1 kina pencay

草の弁財船

V1 ポロ ペンチャイ V2
V1 poro pencay V2

大きな弁財船を

チカン ルウエ ネ
ci=kar_ ruwe ne

私は作り

V1 オロワウン
V1 orowaun

それから

V1 キナ アイヌ V2
V1 kina aynu V2

草の人間を

レホッ エ…… レホッ イキリ
rehot e... rehot ikir

60人の列を

V1 チカン ルウエ ネ V2
V1 ci=kar_ ruwe ne V2

私は作り

シエチポヤラ
siecipoyar

舟を走らせることを

V1 チキ クス
V1 ci=ki kusu

私はするために

V1 ポロ ペンチャイ
V1 poro pencay

大きな弁財船を

V1 チカン ルウエ ネ
V1 ci=kar_ ruwe ne

私は作り

V1 キ ルウエ ネ アワ V2

そうしていたが

V1 ki ruwe ne awa V2

ヤパシクス

陸に上がるために

yap=as h_ikusu

V1 ヤパシ アワ V2

岸へ向かって

V1 yap=as awa V2

シエチポヤラ

舟を走らせることを

siecipoyar

V1 チキ キワ

私はして

V1 ci=ki ki wa

V1 ヤパサワ V2

岸に向かうと

V1 yap=as awa V2

(訪問者 (?): こんにちは)

アヤカナ フンナ ハウエ アン^[2]

びっくりした。誰の声だい？

ayakana hunna hawe an

ポロ ペンチャイ

大きい舟船が

poro pencay

V1 チコッテンカンカリ (?)

私たちが繋がって

V1 ci=kottenkankari(?)

V1 チカン ルウエ ネ

私は作り

V1 ci=kar_ ruwe ne

V1 チパニ

舟を

V1 cip ani

V1 シエプ…… シエチポヤラ V1 siep... siecipoyar	走らせることを
V1 チキ ルウエ ネ V2 V1 ci=ki ruwe ne V2	私はしたのだ
ヤバサワ yap=as awa	岸に向かったが
V1 ヤウンクル アトウイ V1 yaunkur atuy	蝦夷地（北海道）の海と
V1 レプンクル アトウイ V2 V1 repunkur atuy V2	沖の方（本州）の海の
アトウイ ウトウル atuy utur	海の間
V1 チェパ キ コロ V2 V1 c=epa ki kor V2	私がたどり着くと
タン ウェン レラ tan wen rera	このひどい風
V1 ユプケ レラ V1 yupke rera	強い風が
V1 レプン ソッキ ワ V1 repun sotki wa	沖の寝床から
V1 ヤン ルウエ ネ V1 yan ruwe ne	岸に向かって吹いた
V1 タポロワノ V2 V1 tap orowano V2	それから

ヤウン カムイ yaun kamuy	蝦夷地（北海道）の神が
V1 チェラムハウケ V1 ceramhawke	心を静めて
V1 イエカラカラ ワ V2 V1 i=ekarkar wa V2	くれて
アプニタラ apunitara	おだやかになって
V1 ヤパシ クニネ V1 yap=as kunine	上陸できますように（と）
V1 ハウエアナン コロ V1 hawean=an kor	私は言いながら
V1 パウセアン コロ V1 pawse=an kor	パウパウと鳴きながら
V1 ヤパン アイネ V1 yap=an ayne	私は岸に向かい、そのうち
V1 タネ アナクネ V2 V1 tane anakne V2	今はもう
ヤウンクル アトウイ yaunkur atuy	蝦夷地（北海道）の海
アトウイ ノシキタ atuy noskita	海の真ん中に
V1 アラキアン キ コロ V arki=an ki kor	私はやってくると

V1 キナ ペンチャイ V1 kina pencay	草の弁財船
V1 ネ プ ネ クス V2 V1 ne p ne kusu V2	なので
エアラキンネ earkinne	とても
V1 タネ アナクネ V1 tane anakne	最早
V1 ラウオシマ アンキ V1 rawosma anki	沈みそうになった
V1 フマシ ルウエ V2 V1 humas ruwe V2	ようである
イキ ア コロカ iki a korka	ではあるが
V1 ラッチタラ V1 ratcitara	ゆっくりと
V1 アプニタラ V2 V1 apunitara V2	おだやかに
タネ ヘヤシ tane heyasi	今は陸（おか）を
V1 インカラン コロ V1 inkar=an kor	見てみると
V1 キナ ネクス V2 V1 kina nekusu V2	草であるので

ペネ ワ イサム pene wa isam	溶けてしまった
V1 ル ワ イサム V1 ru wa isam	溶けてしまった
V1 キナアイヌ カ V1 kinaaynu ka	草の人間も
V1 キナ ネクス V2 V1 kina nekusu V2	草なので
モム マ イサム mom w_a isam	流れてしまった
V1 オロワノ V1 orowano	それから
V1 マ ネ マヌ プ V1 ma ne manu p	泳ぐということを
V1 チキ キ アニ V1 ci=ki ki ani	私はして、それで
V1 イキアナイネ V2 V1 iki=an ayne V2	私がしているうちに
ヤウンクル アトウイ yaunkur atuy	蝦夷地（北海道）の海
アトウイ パロツ タ atuy par or_ ta	海の入口へ
V1 ヤナン コロカ V1 yan=an korka	登ったが

V1 アプカシ ポカ V2

歩くことばかりも

V1 apkas poka V2

アアンヌクリ^[3]

私はたいへん億劫で

a=annukuri

V1 イキアナイネ

いるうちに

V1 iki=an ayne

V1 サクン…… サ ウン マサラ

前の方の草原（浜）へ

V1 sakun... sa un masar

V1 マクン マサラ

奥の草原（浜）へ

V1 makun masar

V1 マサラ ウトウツ タ V2

浜辺の草原の間に

V1 masar utur_ ta V2

ホッケアン キ ワ

寝ていたが

hotke=an ki wa

V1 ヤイヘセレ

自ら息をして

V1 yayhesere

V1 アキ コロ アナン V2

私はしながらいた

V1 a=ki kor an=an V2

キ アクス

していたが、

ki akusu

(ここから散文)

シンキアン マ アナニネ キ プ ネ クス

sinki=an w_a an=an h_ine ki p ne kusu

私は疲れて

ヤイヘセレアニネ アナナワ
yayhesere=an h_ine an=an awa
息をしていたが、

アイヌ カ ソンノ ウタラパ ネ ノイネ アン オッカヨ サン ヒネ
aynu ka sonno utarpa ne noyne an okkayo san hine
人間なのであろうか本当に立派な様子の男（首領）が下って来て、

タシロ エタイテクテキネ
tasiro etaytektek h_ine
タシロ（山刀）をさっと抜き

ホリピ° トウラ イケウエホムス ハウエ エネ アニ
horipi tura ikewehomsu hawe ene an h_i
踊りと共に魔を払う儀式を行い、このように言った

「シパセカムイ ネ ノイネ アン ペ
“sipasekamuy ne noyne an pe
「位の高い神とお見受けするお方、

マクネ ルウエ シペコピチチチ^[4] ヒネ エネ アニ アン？」
makne ruwe sipekopicicici hine ene an h_i an?”
なぜ全身ずぶ濡れになって、そのようにしているのか？」

セコロ ハウエアン ヒ クス
sekor hawean hi kusu
と言うので、

コチャヌプコロ クニネ コタヌ コパクン ウニ コパクン
kocanupkor kunine kotanu kopak un uni kopak un
目指していた村の方へ家の方へ

エトウトウリトウリアナクス エネ イタキ。
etuturituri=an akusu ene itak h_i.
私は鼻を伸ばす（そっちのほうに顔を突き出す）と、男はこのような言った。

「カムイ ネ アン クル イオシ エイトウラ ワ イコレ

“kamuy ne an kur i=os e=i=tura wa i=kore

「神であるお方、私の後から一緒に来ていただき、

ウエンタラプ ヘネ イキレ ヤク エアシリ カムイ ネ アカラ クスネ ナ」

wentarap hene i=kire yak easir kamuy ne a=kar kusune na”

私に夢を見せるなどして下さるならば神の姿に私はしてさしあげますよ」

セコロ ハウエアン ヒ クス セタ イトウラ シンネノ カネ

sekor hawean hi kusu seta itura sinneno kane

と言うので犬が人について行くようにして、

オサラパアナクス タプ サ……

os arpa=an akusu tap sa…

後から私がついて行くと、今……

マクン マサラ マサラ オシマク タ インネ コタン アン アアニネ

makun masar masar osmak ta inne kotan an aan h_inne

奥の草原（浜）、草原（浜）の背後にはにぎわった村があり、

ヌサ オルン アラパ イ クス

nusa or un arpa h_i kusu

男が祭壇のところへ行ったので

イナウチパ オッ タ アラパアニネ アナナクス

inawcipa or_ ta arpa=an h_inne an=an akusu

幣場（イナウチパ）に私が行ってそこにいると、

カムイ フチ オロ タ アフニネ イイエ アン ペ こんど

kamuy huci oro ta ahun h_inne i=ye an pe KONDO

男は神の媼のところ（家の中）に入って、私のことを告げると、

カムイ フチ クワ エテテ エテテ カネ ヒネ ソイネ ヒネ イケウエホムス。

kamuy huci kuwa etete etete kane hine soyne hine i=kewehomsu.

神の媼は杖をつきつき、戸外へ出て私をねぎらった。

イケウエホムス ハウエ エネ アニ

i=kewehomsu hawe ene an h_i

私にこのようなねぎらいの言葉を言った。

「オヨイ クンネチロンヌプカムイ カムイ ウタラパ エネ ヒネ

“oyoy kunnecironnupkamuy kamuy utarpa e=ne hine

「これはなんと、黒狐の神、神の首領であるあなたが、

ヤウンモシルン エヤン ルスイ クス

yaunmosir un e=yan rusuy kusu

蝦夷地（北海道）へあなたは上陸したいので、

アイヌ オルン エヤン ワ イナウ ピリカプ エエシトムテヤン ルスイ クス

aynu or un e=yan wa inaw pirkap e=esitomteyar_ rusuy kusu

人間のところへ上がって美しいイナウ（木幣）で自らを飾りたいと望んだので、

エヤナ アン ペ オロヤチキ

e=yan aan pe oroyaciki

上陸して、おそらく、

キナペンチャイ エカラ ペ ネ クス

kinapencay e=kar pe ne kusu kina ne kusu

あなたは草の舟財船を作ったので、

キナ ネ クス ル ワ イサム ペネ ワ イサム ヤッカ

ru wa isam pene wa isam yakka

草であるため（船は）溶け（ru）で無くなり、溶け（pene）で無くなったけれども、

セレマク エコロ オラ ヤウンカムイ カ エシコエハンケレ ワ

sermak e=kor ora yaunkamuy ka e=sikoehankere wa

守り神があなたにいたので、蝦夷地（北海道）の神も、あなたを自分のほうに近づけたので

エヤン ルウエ ネ ナ。

e=yan ruwe ne na.

あなたは上陸したのですよ。

アレンカイネ ネ クス カムイ ネ アエカラ クス ネ ナ。

a=renkayne ne kusu kamuy ne a=e=kar kusu ne na.

私の力添えであなたは神様としてまつられますよ。

カムイ ネ アン クニ ラム」

kamuy ne an kuni ramu”

神になるのだと思いなさい。」

セコロ ハウエアン コロ

sekor hawean kor

と言いながら

イコプンテク したんだと ルウェ ネ ヒネ

i=kopuntek SITANDATO ruwe ne hine

私のことを祝福してくれました。

オラ ネ アイヌ ニシパ ソイネ ヒネ イチョッチャ アヤニ キ イネ

ora ne aynu nispa soyne hine i=cotca ay ani ki h_in

それからそこでその人間のニシパ（徳の高い人）が外に出てきて私を矢で射ました。

エアラ アイ アウキネ マラット ネ アン ルウェ ネ アクス

ear ay a=uk h_in maratto ne an ruwe ne akusu

一本の矢を私は受け取り、客人となったため、

それくす イナウ ピリカプ アエイコイトウパ プ ネ クス

SOREKUSU inaw pirkap a=eykoytupa p ne kusu

それこそ、美しいイナウを私は羨む者なので、

イナウ ピリカプ アイエトムテカラ

inaw pirkap a=i=etomtekar

美しいイナウで私は飾られ、

オラノ カムイ フチ カ イコプンテカ イコプンテカ。

orano kamuy huci ka i=kopuntek a i=kopuntek a.

それから神の媼も私を誉めそやし誉めそやした。

オラウン ヤウンモシッ タ オカ クンネチロンヌプ アシコエハンケレ ワ
oraun yaunmosir_ ta oka kunnecironnup a=sikoehankere wa
それから蝦夷地（北海道）にいる黒狐を私は自分のほうへ呼び寄せ、

ネア ニシパ トウラノ セレマカウシ クニ カ アウエンタラプテ
nea nispa turano sermak a=us kuni ka a=wentarapte
ともに例のニシパの守り神となることを、私は（ニシパに）夢を見させ、

アイイワクテ プ ネ クス イナウ ピリカプ アイコレ
a=i=iwakte p ne kusu inaw pirkap a=i=kore
（ニシパが私の魂を）送ってくれる時に美しいイナウを与えてくれるように、

カムイ フチ イカシパオツテ
kamuy huci i=kaspaotte
神の媼が命じて、

イコブンテカ イコブンテカ コロ キ ワ クス
i=kopuntek a i=kopuntek a kor ki wa kusu
私を誉めそやし誉めそやしてくれたので、

アイヌモシッ タ ヤナン ワ クンネチロンヌプ カムイ アネ ワ
aynumosir_ ta yan=an wa kunnecironnup kamuy a=ne wa
蝦夷地（北海道）へ上陸してから私は黒狐神になり、

アウタリヒ アエウタンネ ワ アエヤイコブンテク コロ アナン ルウェ ネ ナ。
a=utarihi a=eutanne wa a=eyaykopuntek kor an=an ruwe ne na.
私の仲間たち（北海道にいる黒狐たち）と一緒に暮らし、私は喜びながらいるのですよ。

タネ オカ クンネチロンヌプ
tane oka kunnecironnup
これからの黒狐は、

アイヌ オルン イテキィ ウェンノ…… ウェン ケウトウム コロ ヤン。
aynu or un iteki wenno... wen kewtum kor yan.
人間に対してけっして悪い精神を持たないように、

セコロ クンネチロンヌプ イソイタク したと

sekor kunnecironnup isoytak SITATO

と黒狐が語りました。

フッタッチプ だって言うもの、フッタッってゆったって、あのトプ ハムさ、
huttatcip だって言うもの、huttat ってゆったって、あの top ham さ、
笹舟だと言うの、フッタッと言うのは、竹の葉さ。

トプ ハム のに カムイ ネ クス

top ham NONI kamuy ne kusu

竹の葉で神であるので

レホッ エウトウラ ペンチャイ やったんだって言うもの

rehot eutura pencay やったんだって言うもの

60人（草人間を）つれて来たと言うだんね。

（萱野茂：レホッ つたら60かい？）^[5]

（萱野茂：rehot つたら60かい？）

レホッっていったら60よ。

rehot っていったら60よ。

（萱野茂：60だな）

【注】

- [1] この kamuyyukar の sakehe 「折り返し」は、非常に特徴的なもので、ア エパウ アワ a epaw awa (V1で示す) を行頭に繰り返すが、2～4句ごとに行末にア エパウ a epaw (V2で示す) という sakehe を置いて、少しポーズをとる。そして次の行は行頭の sakehe 無で始めるという形式になっている。つまり、3行から5行くらいがひとつのまとまった単位として語られている。このように行を超えた単位を sakehe で区切る謡い方の例は他にも見られるが、非常に数は少ない。
- [2] この1行は、訪問者が来たことに対して語り手がもらった言葉であって、物語の一部ではない。
- [3] アンヌクリ annukur は アラ- ar- 「まったく」ヌクリ nukuri 「大儀で～したくない」。
- [4] シペコピチチチ sipekopicicici は si- 「自分に」 pe 「水分」 ko- 「～に対して」

picicici「放す（重複形）。なお、『沙流方言辞典』（P56）などには cipekopicici「体か
らずくが落ちるくらいぬれる」という語がある。

[5] 以下、萱野茂氏が語り手である貝澤とうるしのさんに質問し、とうるしのさんがそれに
答えている。